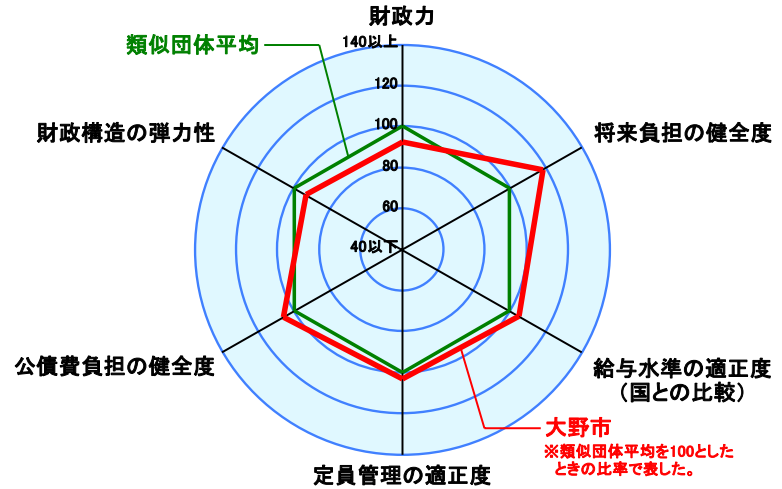
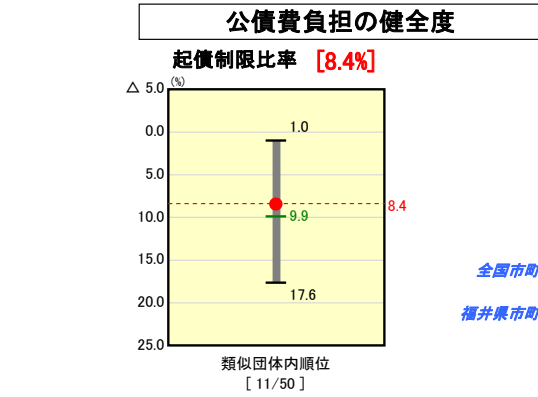
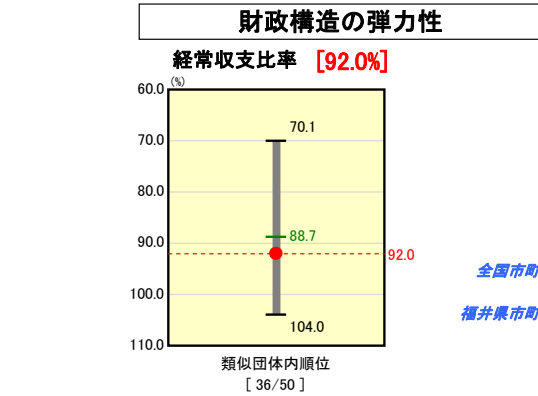
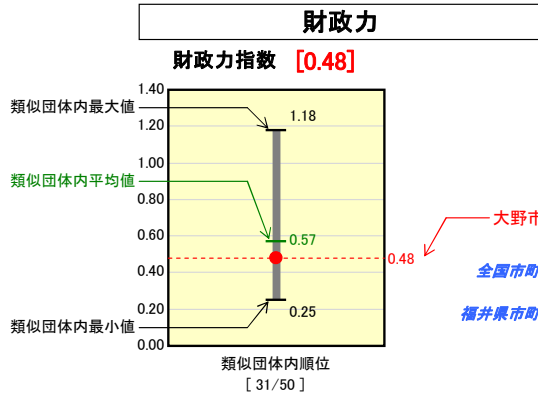


# 市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

## 福井県 大野市

人口	38,616 人(H17.3.31現在)
面積	539.92 km <sup>2</sup>
歳入総額	13,888,007 千円
歳出総額	13,351,298 千円
実質収支	429,334 千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

### 分析欄

※平成17年11月7日に、市町村合併により、旧和泉村を編入した。

- 財政力指数**  
基幹産業である農業、繊維工業の衰退により税収は低く、加えて、長引く景気低迷による個人・法人関係の減収などから0.48と類似団体平均を下回っている。このため、定員適正化計画に基づく職員数の削減や特殊勤務手当の見直しにより人件費を削減する(10年間で1割減)とともに、和泉村との合併を機に、行政改革を推進し、財政の効率化・健全化を図る。
- 経常収支比率**  
老人保健、介護保険の医療費、および農業集落排水、公共下水道の事業推進による公債費の増加に伴う繰出金ならびに身体障害者、児童への扶助費が増加したことにより、初めて90%を超え、92.0%と類似団体平均を上回っている。今後は、事務事業評価システムを構築し、事業の緊急性、優先性、効率化等を考慮し、事務事業の整理合理化を図る。
- 起債制限比率**  
過去の起債抑制策により類似団体平均を下回っているが、合併振興基金を積み立てるための合併特別債やシビックセンター建設事業に伴う起債に係る公債費の増が見込まれるため、引き続き新規発行債の抑制に努め、財政の健全化を図る。
- 人口1,000人当たり地方債現在高**  
起債抑制策により類似団体に比較して市債残高は下回っているが、合併による債務の承継や大型プロジェクト(シビックセンター建設事業)の関係で今後は大幅に増加する。そのため、交付税算入のある市債であっても、事業の必要性を精査して発行の抑制に努める。
- ラスパイレース指数**  
旧来からの給与体系により、給与の適正化に努めてきた。また、平均年齢も類似団体(42.5歳)と比較し、大野市は2歳低い(39.5歳)こともあり、平均水準を下回っている。今後も引き続き、特殊勤務手当をはじめ、各種手当の見直しを行うなど給与の適正化に努める。
- 人口1,000人当たり職員数**  
民間委託の推進、事務事業のIT化に伴う効率化および見直しによる統合、欠員不補充などにより、平成12年度から5年間で22人の削減を行い、類似団体の平均を下回っている。今後は、定員適正化計画に基づき、合併による組織機能の見直しや、民間委託の推進により、今後5年間で33人(7.3%)の削減を目指す。

